別添様式

番　号	11	平成28年度公共事業事後評価調書	担当課名[農地保全課]

事業名	広域営農団地農道整備事業	事業主体	静岡県
箇所名	榛南（はいなん）	市町名	牧之原市、吉田町

事業概要

受益面積	３，８１５ha	採択年度	昭和５７年度	完了年度	当初	平成１８年度
					実績	平成２２年度

事業費	前回	８，９９８百万円（H15計画変更）	実績	９，５２６百万円
事業量	農道工　延長１２，１０５ｍ　車道幅員６．０ｍ（全幅８．０ｍ）			

事業の目的・必要性

本地域は、１級河川大井川の右岸に位置する吉田町と牧之原市に広がる農業地帯で東南部は駿河湾に面し、西部は茶産地牧之原台地、北側には富士山静岡空港が位置している。

吉田町、牧之原市で産出される農産物をより速く交通拠点である東名ＩＣまで運搬する基幹農道の整備が遅れ、農産物流通に支障をきたしていた。

このため、各種事業で整備された土地基盤及び農業用施設を結ぶ基幹農道の整備を行い、生産性の高い農産物の輸送体系を確立するとともに、通作や集落間移動などの利便性の向上を図る。

事業の効果等

費用対効果分析結果		B／C	総費用	総便益	基準年
	前回計画変更(H15)	1.05	95.36 億円 事業費：92.85 億円 再整備費等：－ 億円 関連事業費：2.51 億円	100.20 億円 農業生産向上効果：－ 億円 農業経営向上効果：71.10 億円 地域資源保全・向上効果：29.10 億円	平成15年
	事後	6.23	127.80 億円 事業費：110.00 億円 再整備費等：11.50 億円 関連事業費：6.30 億円	796.67 億円 食料安定供給確保効果：136.07 億円 農業持続的発展効果：－ 億円 農村振興効果：660.60 億円 多面的機能発揮効果：－ 億円	平成27年

1)費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い、総費用、総便益が増加した。

・一般交通の利用台数が大幅に増えたことにより総便益が増加した。

２)事業効果の発現状況

＜食料安定供給確保効果＞

・農道の建設に伴い、運搬車の大型化（軽,1,2tトラック⇒2,6tトラック）、経路の短縮、走行速度の上昇などの改善が図られ、営農労力の大幅な縮減となった。

（通行台数）　計画50万台／年の想定に対し、ほぼ計画通りの48万台／年の通行がある。

（走行時間）　農業輸送総時間が133,799時間の減少となった。

＜農村振興効果＞

・農道の建設により、ＩＣ等へのアクセスが良くなり、一般交通の移動時間の短縮と利用台数が増えたことによる走行経費の大幅な縮減が図られた。

（走行距離の短縮）走行距離が、14.4kmから8.0kmに短縮

（走行時間の短縮）一般交通の移動に要する時間が538,254時間の減少になった。

（走行車両の増加）計画51万台／年の想定に対し、実績は121.8万台／年の通行がある(2.4倍)。

事業により整備された施設の管理状況

・道路の維持管理については、施設管理者である吉田町及び牧之原市によって適正に行われている。

事業実施による環境の変化

・本事業の道路整備によって吉田ICと相良牧之原ICへの交通網が形成され、生産物の輸送と資材の運搬効率が飛躍的に向上した。さらに、交通の優位性から、周辺の茶園では、農地の基盤整備が実施され、乗用型管理機での作業が可能な優良農地の規模拡大が図られるなど、日本を代表する茶産地が維持されている。

・榛南地域では、被覆茶『望』のブランド化に取り組むとともに、「お茶カフェ」を開催し、お茶のＰＲを積極的に行い販売拡大に取り組んでいる。

・また、水稲の裏作として冬場のレタス栽培が盛んな地域で、出荷量は3,739ｔで県内第１位である。流通の優位性を生かして消費地へ早く届けることで、農家の経営安定につながっている。

・朝夕の渋滞時には、国道150号の迂回路としても利用され、車両の分散化が図られている。

社会経済情勢等の変化

（１）地域社会の動向

・平成21年6月4日に富士山静岡空港が開港し、様々な施設や空港へのアクセス道路の整備が進むなど、流通の利便性は高まっている。

・白井工業団地やスズキ牧之原工場の拡張など広域農道周辺地域での工業分野で地域を支える企業活動が盛んであるため、通勤車両や工場関連車両が一般交通の増の要因となっている。

（２）地域経済の動向

・富士山静岡空港の開港時から空港売店に牧之原茶の販売ブースや展望台隣接地の地場産品売り場を設け、地場産品のＰＲと販売促進に努めている。また、空港利用者が70万人に迫るなど交流人口の増加が地域産業の振興や活性化につながることが期待される。

・被覆茶『望』のブランド化、交通ネットワークの利便性を生かした、レタスやトウモロコシの産地強化を図り、水稲を含めた複合経営の実現により農業が榛南地域の主要な産業となっている。

対　応　方　針　（案）

（１）評価結果

事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。

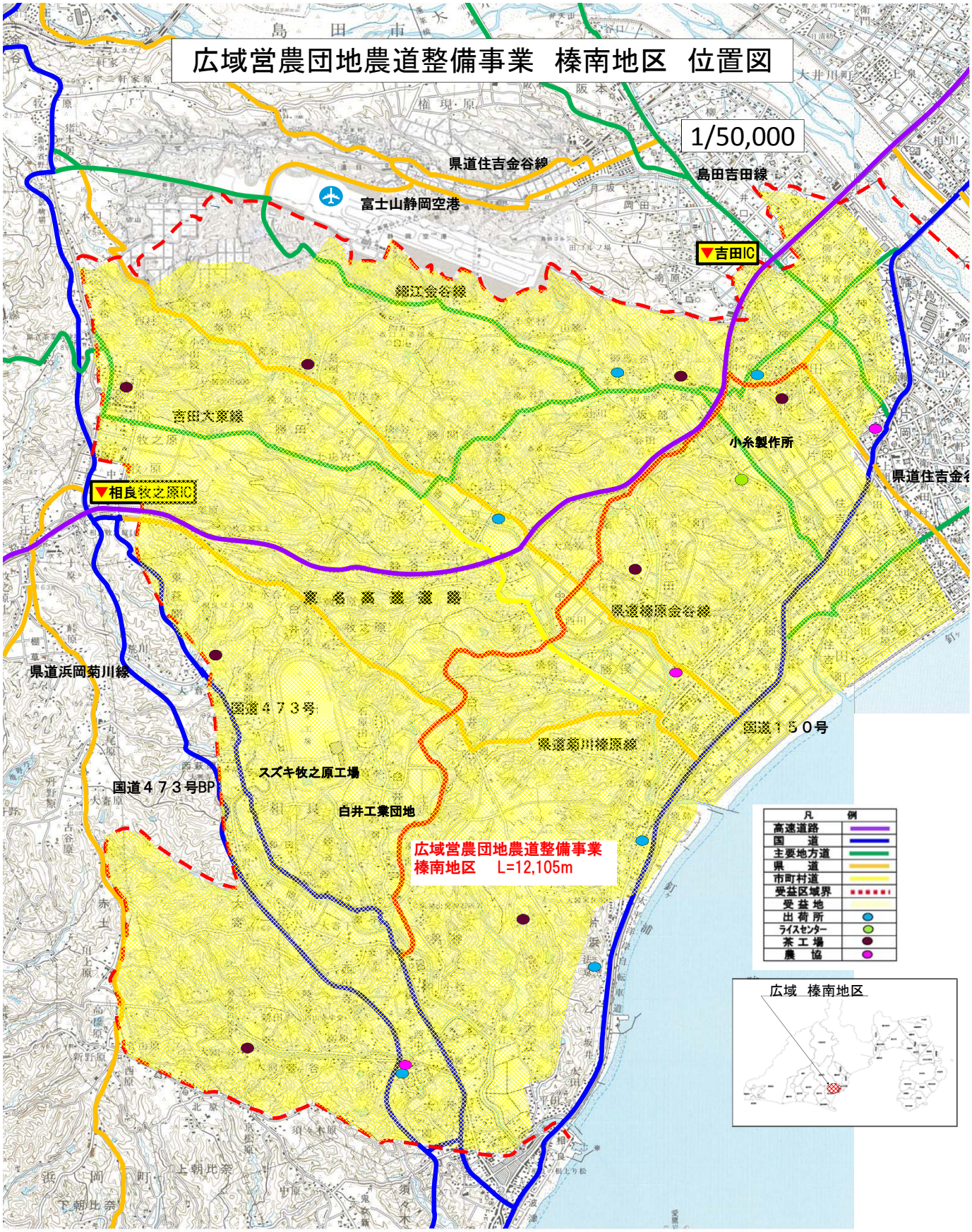
・走行経費の節減効果が十分に発揮されている。
・富士山静岡空港や交通ネットワークの優位性を生かした地域活性化が期待できる。

（２）今後の課題等

・本道路は、農業に加え工業分野でも地域の重要な輸送路として利用されている。また、災害時の迂回路としても利用度が高いため、道路施設の適時適正な管理が求められている。

（３）同種事業への反映等

・平成21年11月に行われた行政刷新会議「事業仕分け」での廃止決定を受け、農林水産省における広域農道整備事業は廃止されている。


広域営農団地農道整備事業　榛南地区　位置図
1/50,000
県道住吉金谷線
島田吉田線
富士山静岡空港
▼吉田IC
細江金谷線
吉田大東線
小糸製作所
▼相良牧之原IC
県道榛原金谷線
県道浜岡菊川線
国道４７３号
国道１５０号
県道菊川榛原線
スズキ牧之原工場
国道４７３号BP
白井工業団地
広域営農団地農道整備事業
榛南地区　L=12,105m
凡　例
高速道路
国　道
主要地方道
県　道
市町村道
受益区域界
受 益 地
出 荷 所
ライスセンター
茶 工 場
農　協
広域　榛南地区

広域営農団地農道整備事業　榛南地区　事業効果

●事業効果の発現状況

整　備　状　況

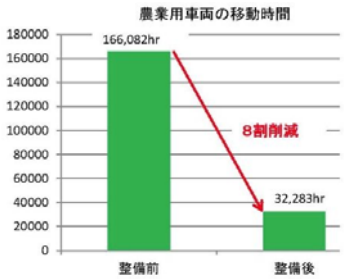
事業実施前

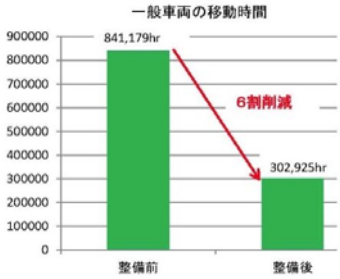
事業実施後

通作（農家～ほ場）時間が短縮

運搬（集出荷場から市場へ）時間が短縮

利用状況





道路の整備後は、
1　輸送経路が短縮。集荷場～ICの距離が短縮
2　輸送時間が短縮。時速40kmへ

道路の整備後の一般交通量
計画：51万台／年　⇔　実績：121.8万台／年　　計画時の約2.4倍

●事業実施による環境の変化

区画整理事業の実施
優良農地の確保

榛南レタス

H28．2月にお茶カフェが集合したイベントを開催

交通の利便性を生かした産地強化を図り、収益性の高い複合経営を推進する。

●社会経済情勢等の変化

富士山静岡空港で販売される牧之原茶

空港展望台横の地元農産物直売所

富士山静岡空港で静岡茶を販売することで、利用者に茶産地静岡をPRし、販路拡大を図る。